

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年9月号 通巻45号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキ直接観察場所募集中

継続的な定点観察はタヌキ研究に必要なのです



記事中の直接観察場所の映像を紹介。

(左)家族8頭が同時に出現。左から2頭目は体色が濃く、名付けて「クロベエ」。(右)夏毛のキュートなお母さん。なぜか私によく近づいた。ここで生まれ育った個体だったのかもしれない。撮影はいずれも2010年。

東京タヌキ探検隊！はタヌキやハクビシンの目撃情報を収集し、分析することが主な活動になっています。そのため「動物そのものを見てくれるわけでもなくせに」と誤解されることがあります。現実にはタヌキそのものを直接観察することは(都会に限らず)難しいことであり、まずは目撃情報を収集しなければ調査研究は進みません。そして、私も機会があれば直接観察、センサーカメラ設置、死体収集など現場に行く調査活動を行っています。

### 直接観察から得られたこと

直接観察の機会はとても少ないものの、私(宮本)は幸運にも2006～2010年にタヌキを継続的に定点観察することができました。その様子はこの東京タヌキタイムズでもたびたび取り上げてきました。その場所はJR山手線の内側地域という、まさに都会のご真ん中です。この場所は地域ネコのエサやり場で、ネコエサを横取りするためにタヌキが現れる

場所でした。ネコたちの不利益にならないよう、時にはタヌキたちを牽制しながらの観察にもなりました。

直接観察の利点は、タヌキたちの行動をすぐ近くから観察できることです。子育て中の観察でもあったので、幼獣たちの成長の様子も知ることができました。長時間の映像記録も残せました。

直接観察を続けている内に重要な目的となっていたのが、個体識別です。タヌキは1頭1頭微妙に模様が違ってきます。確実に、誰でも理解できる見分け方を発見できれば、さらに大きな成果が得られるはずです。ところがこれがかなり難しいのです。模様の違いは非常に微妙で、タヌキ家族が入れ替わり立ち替わり現れると、こちらは簡単に混乱してしまいます。結局のところ、確実な個体識別ができるのは、母親(乳首が見える)あるいは体色が濃い個体(同じ家族の中でも時々現れる)ぐらいでした。これまでのところ、顔まわりの模様で見分けるのが確実そうだが、という仮説にまでたどりつくこ

とができました。ゴールはまだまだ遠そうです。

### 新たな定点観察拠点は？

残念ながらこの場所は2011年、2012年はタヌキが現れませんでした。何らかの理由で巣の場所を移動したようです。ここでの観察の継続は断念することにしました。

研究を発展させるには継続的に直接観察ができる現場は欠かせません。新たな観察場所を探すのは急務です。もし、長期的な観察に向けた場所をご存知の方はぜひ紹介してください。ただ、観察は夜間にならざるをえないのが難点なんですよ。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>